

豪雨のリスクを知ろう

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅡ】採択課題

課題名：小中連携したシームレス防災学習プログラムの開発と実践

研究代表者：総合政策学部 教授 伊藤英之

課題提案者：川口中学校 教諭 小野寺邦俊

研究メンバー：国土交通省岩手河川国道事務所調査第一課長 三浦俊明

技術キーワード：立体地形図・降雨体験・ハザードマップ

▼研究の概要（背景・目標）

岩手町立川口中学校は、2013年度に復興教育指定校に指定され、本学と連携し、持続的な防災学習を展開してきた。川口中学校では、教諭自らがわずかな準備で防災学習授業を行うことができるバックグラウンドが形成されてきた。本研究では、4年間にわたって培われた中学校における防災学習研究成果を、小学校高学年に拡大し、小学生高学年への地域防災学習を行い、次世代の地域防災リーダーを育成することを目指した。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 大学関与なしで実施可能な防災学習プログラムの開発
2. UAV画像、プロジェクションマッピングなど新たな手法の検討
3. ESD的視点を取り入れた学習内容の構築
4. 小学校高学年への応用

▼研究の成果（結論・考察）

1. UAV画像を用いた地域学習は有効
2. 地域学習の中に災害を取り入れることによってシームレスな理解が進む
3. ブロック玩具を用いた地域学習のまとめは児童にとって効果的なまとめとなる。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

ESDの視点を踏まえた防災学習プログラムの開発は一定の成果が認められたことから、今後は希望する小中学校において、地域の特性を踏まえ、カスタマイズしたプログラムを構築したい。

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所には大型降雨体験装置の手配・運用をしていただいた。ここに記して感謝いたします。



図1 降雨体験装置を用いた豪雨実験の様子

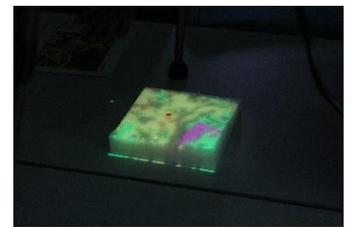


図2 プロジェクションマッピングによる土地の成り立ちの説明



図3 ブロック玩具を用いた安全なまちワークショップ